

■令和 8 年 9 月 3 日 建設委員会 県内調査

I 高取バイパス（高市郡高取町松山・清水谷）

【調査項目】

高取バイパス事業実施箇所について

【調査概要】

一般国道 169 号高取バイパスの事業実施箇所について、高市郡高取町松山・清水谷の工事現場を訪問し、中和土木事務所より、事業の説明を受けた後、現地を調査した。

＜一般国道 169 号高取バイパスの概要＞

一般国道 169 号高取バイパスは、紀伊半島アンカールートの一部を形成する道路であり、奈良県の中和地域と南和地域の広域ネットワークを形成する幹線道路である。

高取バイパスの整備により以下の整備効果が見込まれている。

○観光地へのアクセス向上

高取バイパスと御所高取バイパスの整備により京奈和自動車道と接続することで南和地域の各観光地へのアクセスが向上し、観光振興による地域の活性化が見込まれる。

○一般国道 169 号の交通混雑の緩和

高取バイパスと御所高取バイパスの整備により、一般国道 169 号橿原方面の一層の交通混雑緩和が期待される。

○防災機能の向上

高取バイパスの整備により紀伊半島アンカールートの機能がより向上し、紀伊半島地域での大規模災害への対応力の向上に寄与する。

○交通環境の向上

高取バイパスと御所高取バイパスの整備により、安全かつ快適な走行環境が確立される。

【高取バイパス】

事業区間：高取町兵庫～高取町清水谷

延長：3.4 km

設計速度：60 km/h

車線数：2車線

【高取トンネル】

延長：635m

車線数：2車線

掘削工法：NATM工法

内宮面積：50㎡

工事費：約16億円

工期：H28.12.16～H31.1.31

【上辻トンネル】

延 長：82m

車 線 数：2車線

工 事 費：約10億円

工 期：H30.12.14～R3.3.29

【清水谷高架橋】

橋 長：154m

橋梁形式：3径間連続非合成曲性鈑桁

鋼橋重量：657.2t

車 線 数：2車線

工 事 費：約6億3千万円

工 期：R3.12.15

～R5.9.29

＜質疑応答＞

Q：ボックスカルバートを採用した理由について

A：もともと一つだった集落がバイパス建設により分断されることを防ぐため。バイパス上を住民や農業用車両が安全に通行できる通路とするためボックスカルバートを整備した。ボックスカルバート上部は高取町により災害時の避難場所や防災施設として活用する予定。

Q：現道の国道169号線芦原トンネル側から榎原方面と高取バイパスへの分岐で混乱が生じないように対策する予定はあるのか？

A：混乱を防止するため、芦原トンネルの入り口出口の双方に案内標識を設置し、路面にも進行方向を表示する予定。開通当初はさらに追加の案内看板も設置予定。



Ⅱ 奈良県平成緊急内水対策事業高田土木事務所地下貯留施設（大和高田市栄町）

【調査項目】

奈良県平成緊急内水対策事業高田土木事務所地下貯留施設について

【調査概要】

奈良県平成緊急内水対策事業について、大和高田市栄町の施設を訪問し、河川整備課、高田土木事務所より、事業の説明を受けた後、現地を調査した。

<奈良県平成緊急内水対策事業の概要>

奈良県では昭和５７年８月の大和川大水害の発生を受け、「ながす対策（治水対策）」と「ためる対策（流域対策）」を柱とする大和川流域総合治水対策を推進してきた。その後、平成２９年１０月に台風２１号による内水氾濫被害が発生し、河川の水位上昇に伴う床上・床下浸水被害の解消が喫緊の課題となった。これらを受け、平成３０年５月に奈良県平成緊急内水対策事業を立ち上げた。本事業では、事業候補箇所を有識者による敵地選考委員会で審議、決定し、市町が事業実施主体となり、奈良県は財政的・技術的支援をすることで事業を推進することとした。

具体的には、従前では大雨が降り続くと、排水先の河川の水位が上昇することで、合流する支川や水路の雨水が排水できず、内水氾濫が発生していたが、適地に雨水を一時的に貯留することで、内水地区の被害軽減を図る内水対策事業を県内で実施している。

本事業では高田土木事務所地下貯留施設を含む１９の重点地区で２２の事業実施箇所があり、令和８年８月１日現在では、完成箇所１１、工事中７、設計・用地交渉中等４の進捗状況である。

<高田土木事務所地下貯留施設（甘田川地下貯留施設整備事業）について>

大和高田市内を流れる甘田川は、市内に多数の支川を有する河川で、過去にも大雨が降った際には内水氾濫被害の発生する河川であった。

甘田川の支川の１つは高田土木事務所に隣接しており、大雨などでこの支川の水位が上昇した際に越流堤から高田土木事務所の地下貯留施設へ水を流下させ貯留し、水位の低下後に吐口から貯留水をポンプで排出する施設整備を実施した。この施設により、大雨の際に下流へ流れる水を一時的に貯留することで、周辺の内水被害を軽減することに寄与している。

【浸水実績】

平成 7 年	7 月 4 日	床上 10 戸	床下 50 戸
平成 9 年	7 月 13 日		床下 40 戸
平成 19 年	7 月 17 日	床上 29 戸	床下 31 戸
平成 21 年	8 月 11 日		床下 12 戸
令和 4 年	8 月 10 日	床上 6 戸	床下 25 戸
令和 5 年	6 月 2 日		床下 4 戸
令和 6 年	11 月 2 日		床下 5 戸

【貯留施設概要】

○事業経緯

平成 30 年	5 月	重点地区として決定
	8 月	選考委員会において第 1 次適地として選定
令和 3 年	4 月	大和高田市（事業実施主体）と県が設計業務の協定締結
	11 月	設計実施
令和 4 年	9 月	大和高田市（事業実施主体）と県が工事の協定締結
令和 5 年	3 月	県が工事着手
令和 8 年	3 月	完成

※重点地区の条件

- ・概ね 10 年に 1 度の確率降雨により内水による家屋浸水被害が発生する地区
- ・浸水常襲地域
- ・平成 29 年 10 月台風により内水による家屋浸水被害が発生した地域

○施設概要

貯留池	貯留量：約 1700 m ³
	内 径：(L) 21.2 m × (W) 18.0 m × (H) 5.0 m

揚水ポンプ	基 数：2 台
	口 径：100 mm
	吐出量：1.2 m ³ /min

○最新の稼働実績

令和 8 年 8 月 3 日から 4 日にかけて大雨が降り、甘田川支川の水位が 1.1 m まで上昇したが、地下貯留施設の機能により、支川水位が低下した。（地下貯留池は水深 0.8 m まで貯水した。）

Q：貯留池にたまった水をポンプで排出する時点について基準はあるのか？またそれは自動で行われるのか？

A：当該施設にはダムのような貯水により水位を調整する機能はない。下流へ流れる水を一時的に貯留する施設であり、満水になれば下流へ水を流すこととなる。また、川と貯留池には水位計が設置されており、川の水位が下がると、自動的にポンプで排水される。

